

## 1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調に、自他の生命を尊び、豊かな知性と感性を備えるとともに、国際感覚をもった心身ともにたくましい、人間性豊かな児童の育成を目指し、次の目標を設定する。 ○ よく考え がんばる子 ○ 明るく思いやりのある子 ○ 強い体で 元気な子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	「子ども・教師・保護者・地域が共に学び合い育ち合う学校」 ○子どもにとって学びがいのある学校 ○教師にとって働きがいのある学校 ○保護者・地域にとって誇りにできる学校
○児童・生徒像	○自分の成長を実感し、生涯学び続けようとする子ども ○自他の違いを多様性として認め、それを「よさ」として活かしていこうとする子ども ○人や社会のために役立つ働きをし、自らよりよい関係性や社会を作ろうとする子ども
○教師像	○授業の質を高め、常に学び続ける教師。 ○子どもの「よさ」を積極的に見出し伸ばしていこうとする教師。 ○保護者・地域と共によりよい学校づくりを目指す教師。

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

- ・「足立区コミュニティスクール」として5年目を迎えた。学校・保護者・地域が相互に協力し合い児童の育成を進める「地域協働」を主な経営理念において取り組んでいる。ここ数年は新型コロナウイルス感染症への対策のため、学校行事等を行うことができなかったが、令和4年度には対策を講じた上で、宿泊を伴う行事や校外での行事の他、保護者や地域の皆様へ授業を公開した。また地域と連携した「古千谷フェスタ」を実施し「地域協働の学校」としての意義の一端を感じることができた。
- ・各学級には、支援を必要とする児童が増加している状況で、学級経営が困難になってきている。教職員の特別支援教育への指導力向上だけでなく、保護者や地域の皆様の理解と協力の必要性が増してきている。

### <授業改善・学力向上>

- ・学力調査の通過率が76.7%で、目標とする80%を下回った。既習事項の定着や文章の読み取りに課題がある。今後は、指導方法を工夫するだけでなく、ねらいの達成について確認しながら、個別に応じた支援も行っていく。また、AIドリルなども適宜活用し、基礎基本となる力の定着を図る。家庭学習は毎日行うことができている児童が多いが、取り組めていない児童が30%程度いる。指導内容の定着に向けて、保護者との連携強化が必要。
- ・日常的な読書の習慣化を目指して朝読書および「読書マラソン」に取り組んだ。「100日完読」した児童は███%程度。学年によっては██%達成。
- ・教師の授業力の向上に向け、校内OJT研修を10回行った。内容は、理科における実験器具の扱い方や実技研修、児童の見取り等で、今後は研修内容をさらに充実させ、レベルを高めていく。その他教科研究を行う。

### <小中連携教育の推進>

- ・各教科部会での指導案の作成、検討、授業の実施、協議について連携校で1回ずつ計4回実施した。児童生徒の規律等についても連携を進めていく。

<豊かな心の育成>

- ・縦割り班活動を計画的に年間10回実施した。上学年が下学年を思いやり児童の手本となっている。本校の伝統として継続して行っていく。
- ・校内にある特別支援学級との交流を含め、お互いの良さや違いを認め合う活動を通し、自尊感情や自己有用感の向上に向けて取り組む。
- ・区調査での自己肯定感はどの学年も区の平均を下回っている。できたことを認め励ましながら、自信を持たせ、学習用に活かせるよう学校全体で取り組んでいく。

<体力向上>

- ・縦割り班活動を活用し、様々な動きを取り入れた「こぢランド」を計画的に実施し、運動に親しみ体力の向上を図っている。
- ・なわとび週間や持久走週間の設定でも運動への意識向上が図れた。「たくさん運動したり遊んだりして体を動かしている」と答えた児童は79%であった。

#### 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	健全育成（豊かな心の育成）	○	○	○	○	○
3	体力向上	○	○	○	○	○
4	小中連携、幼保小連携		○			

#### 5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題			達成度 ◎○△●		
確かな基礎学力の定着と活用力の向上		学校平均通過率80%を超える		自己評価の際に記入					
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 新規	学習環境の調整	全学年	年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が授業規律を校内で統一する</li> <li>・古千谷の決まりの作成</li> </ul>	学校評価アンケート	アンケート結果80%以上			
2 新規	座席表の活用	全学年 算数	1単元に 1回以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員が座席表にねらいを達成した児童をチェックする。未達成児童に「たしかめ」の間で個別指導を実施する。</li> </ul>	各学年の取組を学力向上委員が確認 単元終了時のワークテストで確認	Cチェック児童を向上させる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>		
3 継続	読書の推進	全学年	朝読書、 読書週間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各担任、図書担当・図書委員会を中心とする</li> <li>・想像的な思考力の育成</li> <li>・図書支援員と連携し、学年課題図書ほか、教科書に出てくる図書</li> </ul>	・読書マラソンカード				
4 継続	放課後補習教室	全学年 国語 算数	月末の水曜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各担任他、全教員</li> <li>・個々の課題に応じた個別学習</li> <li>・1年生はMIM</li> </ul>	確認テストの実施	1月までの定着度テストで目標値通過児童90%以上			
5 継続	家庭学習の取組	全学年	毎日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各担任</li> <li>・指導内容の定着と予習を通し、家庭学習を習慣化</li> </ul>	宿題や自主学習の提出	年間を通して70%以上			
6 継続	ICTの活用	全学年	毎週 週3回以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週金曜のAIドリル</li> <li>・家庭でのキュビナの取組</li> </ul>	Chromebookの活用状況				
7 継続	授業改善 (教師指導力向上)	全教員	年間6回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の授業研究</li> <li>・授業に向け分科会を実施</li> </ul>	年6回の研究授業	研究授業後の効果検証			

<b>重点的な取組事項－2</b>	豊かな心の育成
-------------------	---------

A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自尊感情・自己有用感の向上		意識調査結果 70%以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自尊感情・自己有用感の向上	児童自己評価で70%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・QUによる分析、評価を元にした支援</li> <li>・全校でSSTを実施</li> </ul>	自己評価の際に記入		
自他共に大切に する心の育成（差別や偏見の防止）	児童自己評価で70%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月のいじめアンケート</li> <li>・5年全員のSC面談</li> <li>・校長、生活指導担当の講話</li> <li>・人権週間での取組</li> <li>・道徳での</li> </ul>			
交流活動の推進	異学年等交流活動を年間10回以上実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り班活動の実施</li> <li>・異学年同士の交流</li> <li>・特別支援学級と通常学級児童との交流</li> </ul>			
「いのち」をテーマとした取組	各学年、年間1回以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳資料の活用</li> <li>・講師を招聘し、講話の実施</li> </ul>			

重点的な取組事項－3		体力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
健康で安全な生活の実践		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上の意識について、保護者評価や児童の評価で肯定的な評価が80%以上</li> </ul>	自己評価の際に記入		

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
日常的な体力向上	・児童の自己評価で「たくさん体を動かしている」80%以上。	・こぢりランドを年間25回実施 ・大縄、縄跳び週間の実施 ・「リングビー」の実施	<b>自己評価の際に記入</b>		
体育、保健学習の充実	・児童の授業についての評価で80%以上。	・年間指導計画に基づいた指導の実施。 ・保健指導年間計画に基づいた指導の実施。			

重点的な取組事項－4 小中連携、幼保小連携					
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
中学校および幼稚園・保育園との円滑な連携		小中連携で授業研究（3回）と情報交換会の実施 幼保小連携で情報交換会（2回）、児童と園児の交流の実施（連携園で2回）	<b>自己評価の際に記入</b>		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
教科指導を通して小中連携	・年間3回の授業実践。 ・講演会1回。	・生活指導を中心とした情報交換の実施。 ・授業公開による児童生徒理解。 ・教科部会毎の授業実践。	<b>自己評価の際に記入</b>		
幼保小連携	・職員交流を通じた園児児童理解。 ・園児児童の交流2回。	・園職員の小学校見学、小学校教員の園見学の実施。 ・園児を招聘して児童と交流実施。			

## 6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

自己評価の際に記入

(3) その他（学校教育活動全般について）